

# 給食用牛乳パックをリサイクルしよう

## ねらい・目的



給食用牛乳パックの回収を通じて、自分たちの生活を見つめ直し、ごみやリサイクルなどの環境問題について考え、資源を有効に活用するための活動に取り組むようになる。

一歩進んだ活動として資源回収による益金を森林整備、緑化の推進を行っている団体に募金することにより、資源の育成に貢献する。

## 取り組みの背景として



札幌市内の小学校の約7割で実施されている給食用牛乳パックのリサイクルは中学校では約2割の学校しか行われていません。

これは

良質のバージンパルプで作られている牛乳パックを「ごみ」として処理することであり、森林資源の保護、資源の有効利用という観点から見るととても「もったいない」ことです。

だから

中学校でも学校全体で給食用牛乳のパックのリサイクルを行うことが大切です。

## 取り組み項目(実施方法)



生徒会でのボランティア活動として回収を始めよう。

分別することによりごみを資源にする活動は、生徒が自発的に行うことにより、ボランティア活動になります。

家庭に帰ってからも、自発的にごみの分別や牛乳パックを回収できる生徒に育てるためには、生徒会活動で行う「牛乳パック回収ボランティア活動」が効果的です。

### 取り組み1 生徒会事務局（役員会）が中心となって計画を作成しよう



- ・生徒総会、全校協議会、生徒会放送などを通して牛乳パック回収の意義を中心にボランティア募集方法、回収手順、回収期間などを説明する。その中で目標数値を発表する。  
あくまでもボランティアなので、みんながやりたくなるような工夫を事務局（役員会）内で考えましょう。

## 自主的な活動にするために

### 1. とにかく楽しくやる

やっている人が楽しそうに活動していると、同調して参加してくる人が増えてきます。

### 2. 学級内でも目標を立てる

(ボランティア人数) × (日数) × 1.1 くらいが実現可能でやる気も出ます。

### 3. 授業などで話をする

牛乳パックの回収の意義など、地球環境に関することを、教科の指導内容と絡めながら、折に触れて話します。

## 取り組み2 ボランティアを募集しよう

### ポイント

- ・希望者は活動への参加・協力を宣言するために、各学級に貼られたボランティア参加宣言者名簿に署名します。活動の意義を理解し、活動期間中、自分で「洗う」「乾かす」「開く」「集める」ことを誓います。  
この活動の大きな目的は、子どもたちが家庭に帰ってからも様々なごみを分別し、資源を無駄にしないようにすることです。自発的な活動（ボランティア）の輪を広げていくことが大切です。
- ・署名したら途中からでも活動に参加できます。  
ただし、その期間中に途中で活動をやめることは認めないようにします。

## 取り組み3 各学級で回収作業をしよう

### ポイント

- ・ボランティアリーダー（学級代表や委員）を中心に活動する。
  - ・作業は「洗う」「乾かす」「開く」「数えてまとめる」です。
  - ・週末に1週間分を集約して生徒会室へ提出します。
  - ・活動の最終日に、反省アンケートに反省と次回の参加意思を記入します。
- ※洗う時間、場所、方法は各学校で決めます。トイレやバケツを洗う順番などは各学級で決めるようにします。

## 牛乳パックリサイクルの問題点

### 1. 臭い

きれいに洗ってしっかり乾燥させる。教室内にいつまでも置かない。この2点で、かなり解決されます。洗わないと臭くなることを通して、ペットボトルや空き缶などを資源回収に出す時には「水ですすいでから出す」と注意されている理由が理解できます。

### 2. 水問題

牛乳 200ml を下水道に流し、そこに魚が住むことができるようにするためには、浴槽 10 杯分（1杯 300 ㍓として）の水が必要であるといわれています。まず、パックの底に残った牛乳を完全に食缶に戻してからすすぐといった工夫が必要です。また、少量の水でも2回すすぐことによって十分きれいにする事ができるので、節水のために蛇口で水を出し続けるすすぎは避けたいものです。

#### 取り組み4 全校分をまとめて結果を発表しよう



- ・昼の放送や玄関の掲示板などを使い、大々的に結果を発表します。
- ・反省アンケートを集約し、活動の反省と改善点を発表します。

#### 取り組み5 次回の活動の方向性を考えよう



- ・次回の活動の実施時期、期間、改善事項、活動目標などを考えます。

#### 取り組み6 牛乳パックを引き取ってもらおう



- ・学期に1回ぐらいが目安。回収業者が貸してくれる専用かごが一杯になったら、回収業者に連絡します。

#### 取り組み7 回収による益金を緑化推進団体に募金しよう



- ・緑の羽根募金などに募金する。
- ・回収による益金だけでは足りないと感じるようであれば、募金活動を行うのもよいでしょう。

### 取り組み効果



#### 効果 1 成果が数値となって表れる

ごみの削減量、トイレトペーパーに変えられる量、森林を保護した量、森林保護団体に募金できる金額というように収集結果が様々な数値となって表れるので、達成感を味わうことができる。そしてそれが次回への意欲へとつながる。

#### 効果 2 小さな力の大切さを知る

一人の力は小さくとも、みんなで活動すると大きな成果となって表れることを体感できる。そのことから、大きな成果とは小さなことの積み重ねであることを知り、一人一人の心がけが環境問題解決のためには重要であることが分かる。

#### 効果 3 家庭でも資源回収に協力する

牛乳パックを家庭でも回収するようになり、他の資源回収にも興味を持ち、活動するようになる。

## 他のプログラムとのつながり



### ■Sapporo エコライフ実践校の取り組み（中学・高校編）

環境 ISO を含め、全校的な環境配慮の取り組みを推進する。

### ■「ごみ」と「資源」の再発見（家庭・地域・職場編）

地域ぐるみで集団資源回収などのごみ減量に取り組み、行動を定着させる。

## 参考資料等



1

### 学校給食用牛乳空きパック回収協力事業実施団体のホームページ

社団法人 北海道乳業協会

<http://www17.ocn.ne.jp/~h-nyugyo/info.html>

（連絡先）〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 酪農センター2階

Tel 011-251-2561 FAX 011-251-2581

2

### 牛乳パックに関するホームページ

全国牛乳パックの再利用を考える連絡会

<http://www.packren.org/Japa/P1.html>

全国牛乳容器環境協議会

<http://www.yokankyo.jp/>

3

### 緑化推進者のホームページ

社団法人 国土緑化推進機構（緑の募金）

<http://www.green.or.jp/>